施策評価シート（令和元年度～４年度）

分野	10　生活・環境
政策	2　豊かな自然環境を守り次の世代へ繋いでいきます
施策	1　南アルプスなどの自然環境・生態系の保全
施策の目的	本市の豊かな自然環境を守り、将来の世代へ引き継いでいくために、定期的な環境調査や保護活動の実施により、南アルプスをはじめとする貴重な自然環境の保全に取り組みます。

評価責任者	所属	環境局　環境創造課
	氏名	課長　佐藤　暢久

（１）総合評価

総合評価	令和元年度	**A：施策の目的が達成されている。**	理由	南アルプス主要地域として設定した千枚小屋周辺の高山植物の指標となる種数については13種であり、目標値の15種を達成できなかったものの、高山植物全体では33種確認することができており、防鹿柵による保護の効果が見られ、南アルプスの自然環境・生態系の保全に向けて一定の成果をあげていることから、総合評価を「A」とした。
	令和２年度	**A：施策の目的が達成されている。**	理由	南アルプス主要地域として設定した千枚小屋周辺の高山植物の指標となる種数については13種であり、目標値の15種を達成できなかったものの、高山植物全体では30種確認することができており、防鹿柵による保護の効果が見られ、南アルプスの自然環境・生態系の保全に向けて一定の成果をあげていることから、総合評価を「A」とした。
	令和３年度	**－**	理由	－
	令和４年度	**－**	理由	－

※【評価基準】Ｓ：施策の目的が十分に達成されている。Ａ：施策の目的が達成されている。Ｂ：施策の目的があまり達成されていない。Ｃ：施策の目的が達成されていない。－：評価できない。
※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

（２）成果指標

	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	**評価**	目標値の算出根拠
成果指標	南アルプス主要地域（千枚小屋周辺）の高山植物数の維持	13種（平成29年度）	1	15種	13種（33種）	86.6%	b	高山植物の保護状況を測るためには、長期的な経過観察で捉えることが不可欠であることから、防鹿柵設置時の平成25年度の調査で確認できた高山植物15種を指標種として設定し、当該指標種の維持を目標とした。
			2	15種	13種（30種）	86.6%	b	
			3	15種	－	－	－	
			4	15種	－	－	－	
			1					
			2					
			3					
			4					
			1					
			2					
			3					
			4					

指標以外の成果	・平成25年度調査では15種であった高山植物が、令和２年度調査では30種（うち指標種は13種）確認ができ、設置した防鹿柵が一定の成果をあげている。 ・市民向け講話や各種媒体を利用してウェブサイトの存在を周知した結果、ウェブサイト「しぜんたんけんてちょう」の閲覧数が前年度を大きく上回った。（前年度比 2,338件増加、R2実績値：39,738件、R1実績値：37,400件） ・放任竹林の整備を行う里山保全団体として、新たな12団体が活動を始めた。

※【評価基準】ｓ：105%以上、ａ：95%以上105%未満、ｂ：85%以上95%未満、ｃ：70%以上85%未満、ｄ：70%未満

（３）施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
南アルプス環境調査	①動植物調査　　1年度実施 ②植生調査　　1年度実施	1	1	9,800	0	9,259	0.5	0.0	0.0	○
			2	3,300	0	3,300	0.5	0.0	0.0	
			3	―	―	―	―	―	―	
			4	―	―	―	―	―	―	
南アルプスユネスコエコパーク管理運営計画推進事業	①防鹿柵維持管理 ②高山植物保護セミナーの開催 ③ライチョウサポーターフォローアップ講座等の開催	1	1	5,403	0	4,949	1.5	0.0	0.0	○
			2	4,222	0	3,580	1.5	0.0	0.0	
			3	―	―	―	―	―	―	
			4	―	―	―	―	―	―	
生物多様性地域戦略の推進	①リーディングプロジェクトの進捗管理　21事業 ②外来生物の適正管理 ③ウェブサイト「しぜんたんけんてちょう」による情報発信	3	1	7,234	0	6,610	1.0	0.0	0.0	○
			2	3,230	0	1,390	1.0	0.0	0.0	
			3	―	―	―	―	―	―	
			4	―	―	―	―	―	―	
放任竹林対策事業	①放任竹林対策推進事業補助金交付 ②放任竹林整備事業用消耗品等交付 ③自走式竹破砕機の貸出 ④市による委託伐採とボランティア団体による伐採地管理	4	1	9,881	0	8,130	1.2	0.0	0.0	○
			2	9,386	0	8,180	1.2	0.0	0.0	
			3	―	―	―	―	―	―	
			4	―	―	―	―	―	―	
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。
※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、－：計画上実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

（４）今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	・高山植物の保護については、一定の成果をあげているが、広範にわたる南アルプスの高山植物を保護していくためには、国や県、関係機関、民間など多くの団体等の協力が必要である。 ・ウェブサイト「しぜんたんけんてちょう」の閲覧数については、サイトアクセス数の分析結果を踏まえ、閲覧者が減少することなく、見やすく使い安い利活用を含めた周知を展開することが必要である。	・国、県、市など広域的な連携をさらに進めるとともに、自然環境保全への取組に関心が高い民間企業等に対し積極的に協力を求めていく。 ・生物多様性地域戦略が令和２年度で終了となることから、新たな戦略策定と合わせてウェブサイトの充実を図り、閲覧数向上に努める。
令和２年度	・南アルプスユネスコエコパークの自然環境保全に取り組む人材を育成するため、高校の山岳部の生徒を対象に高山植物保護セミナーを開催しているが、今後は、多様な実施方法の検討も必要である。 ・ウェブサイト「しぜんたんけんてちょう」の閲覧数については、サイトアクセス数の分析結果を踏まえ、閲覧者が減少することなく、見やすく使い易い利活用を含めた周知を展開することが必要である。	・高山植物保護セミナーのように高山域を中心とした体験活動だけでなく、小学生から大人まで幅広く市民が参加できる内容にも取り組むことで、自然環境保全に取り組む人材を育成する。 ・令和３年３月に策定した第２次静岡市生物多様性地域戦略に基づき、市民生きもの調査員の育成や幼児期からの環境学習などに、市民、市民活動団体、企業、学校などと連携して取り組む。 ・ウェブサイトの充実を図り、閲覧数向上に努める。
令和３年度	―	―
令和４年度	―	―

施策評価シート（令和元年度～４年度）

分野	10　生活・環境
政策	2　豊かな自然環境を守り次の世代へ繋いでいきます
施策	2　持続可能な自然の利活用の推進
施策の目的	本市の豊かな自然環境を守り、将来の世代へ引き継ぐための取組を推進し、人と自然が共に生き、誰もが住み続けたいと思えるまちづくりを目指すとともに、自然の保全にとどまらず、市民がより身近に自然の魅力を感じられるよう、自然に親しむ機会を充実させるなど、持続可能な利活用を目指します。

評価責任者	所属	環境局　環境創造課
	氏名	課長　佐藤　暢久

（１）総合評価

総合評価	令和元年度	**Ａ：施策の目的が達成されている。**	理由	自然環境学習への参加者数については目標値を下回ったものの、その理由が主に新型コロナウイルスによるイベント等の開催中止の影響であること、またウェブサイト「しぜんたんけんてちょう」の閲覧数が目標値を大きく上回り、自然環境・生態系の保全に向けて一定の効果を挙げている事業もあることから、総合評価を「Ａ」とした。
	令和２年度	**Ａ：施策の目的が達成されている。**	理由	新型コロナウイルス感染症によるイベント等の開催中止の影響で自然環境学習への参加者数は目標値を下回ったものの、ウェブサイト「しぜんたんけんてちょう」の閲覧数は大きく増加し、施策の目的である自然に親しむ機会を充実させることができた。
	令和３年度	**－**	理由	－
	令和４年度	**－**	理由	－

※【評価基準】Ｓ：施策の目的が十分に達成されている。Ａ：施策の目的が達成されている。Ｂ：施策の目的があまり達成されていない。Ｃ：施策の目的が達成されていない。－：評価できない。
※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

（２）成果指標

	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	**評価**	目標値の算出根拠
成果指標	自然環境学習への参加者数	4,621人 （平成29年度）	1	4,671人	4,124人	88.2%	b	平成29年度の実績値4,621人であり、自然環境学習への参加増が期待されるため、年間25人増となるよう目標値を設定した。
			2	4,696人	2,635人	56.1%	d	
			3	4,721人	―	―	―	
			4	4,746人	―	―	―	
指標以外の成果	・市民向け講話や各種媒体を利用してウェブサイトの存在を周知した結果、ウェブサイト「しぜんたんけんてちょう」の閲覧数が前年度を大きく上回った。 （前年度比 2,338件増加、R2実績値：39,738件、R1実績値：37,400件）							

※【評価基準】ｓ：105%以上、ａ：95%以上105%未満、ｂ：85%以上95%未満、ｃ：70%以上85%未満、ｄ：70%未満

（３）施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
環境教育の推進	①環境学習指導員派遣による自然観察会 ②各種観察会の実施	1	1	5,593	0	5,388	1.0	0.0	0.0	○
			2	5,447	0	3,996	1.0	0.0	0.0	
			3	―	―	―	―	―	―	
			4	―	―	―	―	―	―	
生物多様性地域戦略の推進	①リーディングプロジェクトの進捗管理　21事業 ②外来生物の適正管理 ③ウェブサイト「しぜんたんけんてちょう」による情報発信	2	1	7,234	0	6,610	1.0	0.0	0.0	○
			2	3,230	0	1,390	1.0	0.0	0.0	
			3	―	―	―	―	―	―	
			4	―	―	―	―	―	―	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。
※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、－：計画上実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

（４）今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	「自然環境学習への参加者数」については、既存の環境関連情報が分散しており、学びたい側に提供できておらず、参加者数の増加につながっていない。情報を整理・発信する基盤整備をし、周知を展開することが必要である。	平成19年度策定の「環境教育基本方針」を改定し、目標を設定し目標に向けた具体的な施策を位置付けて進捗管理をする「環境教育行動計画」を策定する予定である。市民、企業、学生等の連携及び協働が生まれ環境活動の環が広がることで、自然環境学習の場や参加者数の増加につながるよう努める。
令和２年度	「自然環境学習への参加者数」については、既存の環境関連情報が分散しており、学びたい側に提供できておらず、参加者数の増加につながっていない。情報を整理・発信する基盤整備をし、周知を展開することが必要である。	ウェブサイト「しぜんたんけんてちょう」のコンテンツを充実し、閲覧しやすいレイアウトに改修するとともに、自然観察などの活動結果の投稿や検索のしやすさを高める工夫を講じ、サイト運用を通して、環境活動の誘因を図る。
令和３年度	―	―
令和４年度	―	―

施策評価シート（令和元年度～４年度）

分野	10　生活・環境
政策	2　豊かな自然環境を守り次の世代へ繋いでいきます
施策	3　自然を守る人材の育成
施策の目的	近年急速に進行している地球温暖化、外来種問題などによる自然環境への影響が懸念されています。本市の南アルプスから駿河湾までの豊かで美しい自然環境を守り、将来の世代へ引き継ぐため、環境ボランティアの育成や環境教育を推進し、自然を大切に思う心を育み、市民一人ひとりが自然の価値を改めて認識するよう、自然を守る人材や団体の育成を図ります。

評価責任者	所属	環境局　環境創造課
	氏名	課長　佐藤　暢久

（１）総合評価

総合評価	令和元年度	**A：施策の目的が達成されている。**	理由	成果指標は目標を達成できなかったものの、令和元年度に立ち上げた「竹林整備隊」事業を通して５名が新たに保全団体にするなど、自然を守る人材・団体の育成が図れている事業もあることから、総合評価を「A」とした。
	令和２年度	**A：施策の目的が達成されている。**	理由	竹林整備隊事業の開催中止のほか、新型コロナウイルス感染症は河川環境アドプトプログラムの登録団体の活動にも影響したと考えられるが、放任竹林の整備を行う里山保全団体として新たな12団体が活動を始めるなど、自然を守る人材や団体の育成が図られた。
	令和３年度	**－**	理由	－
	令和４年度	**－**	理由	－

※【評価基準】Ｓ：施策の目的が十分に達成されている。Ａ：施策の目的が達成されている。Ｂ：施策の目的があまり達成されていない。Ｃ：施策の目的が達成されていない。－：評価できない。
※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

（２）成果指標

	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	**評価**	目標値の算出根拠
成果指標	河川環境アドプトプログラムの登録団体の延べ活動回数	86回（平成29年度）	1	94回	85回	90.4%	b	河川環境アドプトプログラムの登録団体からは、環境美化活動後に報告を受けており、活動状況を把握しやすい。そこで、年間新規登録数を１団体、年活動を２回程度として目標設定をした。
			2	96回	57回	59.3%	d	
			3	98回	―	―	―	
			4	100回	―	―	―	
指標以外の成果	・放任竹林の整備を行う里山保全団体として、新たな12団体が活動を始めた。 ・市民向け講話や各種媒体を利用してウェブサイトの存在を周知した結果、ウェブサイト「しぜんたんけんてちょう」の閲覧数が前年度を大きく上回った。 （前年度比 2,338件増加、R2実績値：39,738件、R1実績値：37,400件）							

※【評価基準】ｓ：105%以上、ａ：95%以上105%未満、ｂ：85%以上95%未満、ｃ：70%以上85%未満、ｄ：70%未満

（３）施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
環境教育の推進	①環境学習指導員派遣による自然観察会 ②各種観察会の実施	1	1	5,593	0	5,388	1.0	0.0	0.0	○
			2	5,447	0	3,996	1.0	0.0	0.0	
			3	―	―	―	―	―	―	
			4	―	―	―	―	―	―	
放任竹林対策事業	①放任竹林対策推進事業補助金交付 ②放任竹林整備事業用消耗品等支給 ③自走式竹破砕機の貸出 ④市による委託伐採と団体による伐採地管理	2	1	9,881	0	8,130	1.2	0.0	0.0	○
			2	9,386	0	8,180	1.2	0.0	0.0	
			3	―	―	―	―	―	―	
			4	―	―	―	―	―	―	
生物多様性地域戦略の推進	①リーディングプロジェクトの進捗管理　21事業 ②外来種の適正管理事業 ③ウェブサイト「しぜんたんけんてちょう」による情報発信	3	1	7,234	0	6,610	1.0	0.0	0.0	○
			2	3,230	0	1,390	1.0	0.0	0.0	
			3	―	―	―	―	―	―	
			4	―	―	―	―	―	―	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。
※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、―：計画上実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

（４）今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	放任竹林対策事業における活動団体の高齢化や人数の減少は顕著であり、新規に整備活動を担う市民を開拓していかなければ、放任竹林による問題は拡大してしまう。そのため、現在の事業は継続しつつ、新規に活動する団体、人材の創出を目指して各方面での事業及び団体の活動を周知していく必要がある。	人材の創出のための事業として、市民が竹林の整備活動に気軽に参加できる機会を提供するため、「竹林整備隊」事業を立ち上げた。竹林整備隊を通して、竹林整備に関心のある市民と活動団体をつなぎつつ、団体の活動を活性化させる取組を進めている。
令和２年度	放任竹林対策事業における活動団体の高齢化や人数の減少は顕著であり、新規に整備活動を担う市民を開拓していかなければ、放任竹林による問題は拡大してしまう。そのため、現在の事業は継続しつつ、新規に活動する団体、人材の創出を目指して各方面での事業及び団体の活動を周知していく必要がある。	市民と活動団体をつなぐ竹林整備隊事業を拡充するとともに、令和３年度から活動団体が行う環境教育事業を支援していく。
令和３年度	―	―
令和４年度	―	―